

可能文の意味について

井上 優（日本大学文理学部）

inoue.masaru@nihon-u.ac.jp

1. 問題

- ・ポテンシャルな「潜在可能」とアクチュアルな「実現可能」（渋谷 1993, 2005）

- (1) a. 私は 3 キロ泳げる。 [潜在可能]
b. 私は以前は 3 キロ泳げた。（今はそこまでは泳げない。） [潜在可能]
- (2) 今日は 3 キロ泳げた。 [実現可能]
- (3) 可能の意味は、行為の実現ということが含意されているか否かによって、それが含意されている実現可能と、それが含意されていない潜在可能の 2 つにわけることができる。

(a-1) 実現可能：行為の実現の有無も含んで述べるもの。動作の発動が予定されているか（未来）、実際に発動されている（過去・現在）。

「(スケートをしながら) 今日は体調がいいからこんなにすいすいすべれるよ」「きのうようやくそこに行けた」など。

(a-2) 潜在可能：行為の実現の可・不可について、その行為を行う力や条件がそろっているかどうかだけを述べるもの。動作の発動は、確実に行われるものとしては予定（過去の場合、実現）されていない。

「きょうは気分がいいからいくらかでも泳げるよ。2 時間ぐらい泳いでみせようか」「そのときそこに行けたのに行かなかった」など。

尾上(1998)などの指摘するように、「可能 (potential)」という名前にふさわしいのは潜在可能であり、アクチュアルな「実現可能」は「可能」ではない。にもかかわらず本稿でそれを可能として取り上げるのは、それが日本語では同じ形式によって表され、また歴史的にも起源と派生の関係にあるからである。 (渋谷 2005:33、体裁変更)

- ・問題：実現可能に関する言語差

- (4) a. 今日は 3 キロ 泳いだ／泳げた。
b. 오늘은 3 킬로 수영했다／수영할 수 있었다. (수：やりよう、있다：ある)
今日は 3 キロ 泳いだ 泳ぐことができた
c. 今天游了三公里。
- (5) a. お会いできて（#お会いして）うれしいです。
b. 만나서 반갑습니다.
会って うれしいです
c. 見到您很高兴。

(6) 能見到您很高兴。

(7) (スケートをしながら)

- a. 今日は体調がいいからこんなにすいすいすべれるよ。 (渋谷 2005:33)
- b. 我今天身体状态好, 所以 {能/可以} 滑得这么好。
- c. 我今天身体状态好, 所以滑得这么好。

- (8) a. 今始めれば日暮れまでには書ける (「書き終わる」の意) (渋谷 1993:15)
- b. 现在开始写的话, 傍晚就能写完。
 - c. 现在开始写的话, 傍晚就写完了。

2. 韓国語・中国語・古代日本語に関する記述

○韓国語

(9) 日本語において《実現可能》の意味を持つ可能表現には、①事態実現の要因や実現までの過程を伴う〈条件型可能〉と、②実現の可能性がどこにあるかは問題にならず、事態実現の結果だけが差し出される〈条件不問型可能〉がある。 (高 2015:190-191)

(10) [韓国語では] 事態実現の要因やその過程などを伴うことで動作完了 (実現・非実現) に至るプロセスが重んじられる〈条件型可能〉には可能形式が用いられる。 (高 2015:194)

(11) 発話時における過去の出来事として動作主の期待や意図に応じる結果のみが差し出される〈条件不問型可能〉は、韓国語において可能形式を伴わない傾向がある。(略) 事態の実現ができなかった「非実現」の場合に限って可能形式が現れる。 (高 2015:192, 200)

- (12) a. 1週間徹夜してやっと論文が出せた。 〈条件型可能〉
- b. 1주일간 밤샘해서 겨우 논문을 낼 수 있었다. (高 2015:195)
- 1週間 徹夜-して やっと 論文-を 出すことができた

- (13) a. 久しぶりに会えたんだし、楽しくやれば。 〈条件不問型可能〉
- b. 오랜만에 만났는데, 즐겁게 지내면 되잖아. (高 2015:192-193)
- 久しぶりに 会ったので 楽しく 過ごせば よいじゃないか

- (14) (憧れの人に会いに行くと言っていた友達に)
- a. 「あの人に会えた?」「会えた。／会えなかった。」 〈条件不問型可能〉
 - b. 「그 사람 만았어?」「만았어. / 못 만았어.」 (高 2015:200-201)
 - その人 会った 会った 不可能 会った
 - c. 「안 만았어.」(会わなかった。)
 - 否定 会った

○中国語

- (15) I. ある動作行為とその結果として実現する事態が想定される；

看（見る）＋见（見える）
听（聞く）＋清楚（鮮明である）
晒（日に晒す）＋黑（黒い）
学（学習する）＋好（好い）

- II. 想定された事態が「実現した」なら“VR了”と表現される；

看见了（見えた）[見られた]
听清楚了（はっきり聞こえた）[はっきり聞けた]
晒黑了（日焼けした）
学好了（マスターした）[マスターできた]

- III. 想定された結果が「実現できなかった」なら“没有VR”と表現される；

没有看见（見えなかった）[見られなかった]
没有听清楚（はっきりとは聞こえなかった）[はっきりとは聞けなかった]
没有晒黑（日焼けしなかった）
没有学好（マスターできなかった）

- IV. 想定された結果が「実現していない」あるいは「実現しない」と判断されたなら“V不R”と表現される；

看不见的战线（目には見えない戦線）[目で見られない]
听得见，但是听不清楚（聞こえるが、鮮明ではない）[鮮明に聞けない]
晒不黑的脸（日焼けしない顔）

- V. 想定された結果が「実現している」あるいは「実現する」と判断されたなら“V得R”あるいは“助＋VR”と表現されるが、「実現する」は“助＋VR”と表現される場合が多い；

看得见的星星（目に見える星）
老师问别的同学听得清楚听不清楚？大家都说听得清楚。（先生がほかの学生にはっきり聞こえるかどうかと尋ねると、みんなはっきり聞こえると答えた。）
学汉语不太难，只要多听多说，就能学好。（中国語はあまり難しくない。たくさん聞いて、たくさん話さえすれば、それでできるようになる。）

- VI. 肯定形“V得R”と否定形“V不R”に関しては否定形の使用頻度が極めて高く、肯定形は使用頻度が極めて低い（略）

（杉村 1997:229-230、下線と[]内は引用者追加）

- (16) a. 拿到驾照了。
b. 運転免許を取得した。／運転免許を取得できた。

- (17) a. 今天游了三公里。（＝(4c)）
b. 今日は3キロ泳いだ。／今日は3キロ泳げた。

- (18) a. 上手に書けたね。
b. 你的字写得好漂亮！

(19)

		日本語	韓国語	中国語
未然	非可能	非可能形	非可能形	非可能形
	潜在可能	可能形	可能形	可能形
已然	非可能	非可能形	非可能形	非可能形
	実現可能（条件不問型）	可能形		
	実現可能（条件型）		可能形	

○古代日本語

- (20) 「る・らる」は、その事態が、当事者の意志に関わりなく成り立ったことを示す。
(略)

「る・らる」には可能の意味があるとされる。可能という概念は、行為者の意図・試みが実現することであり、それが実現しない時には不可能としてとらえられる。古語では、後者の意図・試みの実現しない時には「……れ（られ）ず」のように表すことがあったが、前者の意図・試みの実現ということの表現に、「る・らる」の使われることは一般的ではなかった。

白雲の絶えずたなびく峰にだに住めば住みぬる世にこそありけれ

(古今集・雑下・九四五)

右の歌の「住めば住みぬる」は「住んでみて住んでしまう」と、その試みたことが実現するという形で表現されているが、現代語で訳すならば、「住んでみて住むことができてしまう」とするような例である。すなわち、古語では、現代語で試みを実現できたと可能で表す文脈を、結果としてそのようになったと表現したのである。

(山口 1988:59, 61、下線引用者)

- (21) 延慶本平家物語 [12世紀] 以前にも肯定可能の例があるという指摘は少なからずなされており、既に中古からあるという指摘もある。次の(5)～(8)がその例である。

- (5) 隙見ゆるに、寄りて、西ざまに見通したまへば、この際に立てたる屏風も端の方おしたたまれたるに、紛るべき几帳なども、暑ければにや、うち掛けていとよく見入れらる [とてもよく見通せる]。 (源氏物語・空蟬、p.86)

- (6) (朧月夜ガ) 御障子のしりは固めたれば、(光源氏)「いと若やかなる心地もするかな。年月の積もりをも、紛れなく数へらるる [誤りなく数えられる] 心ならひに、かくおぼめかしきは、いみじうつらくこそ」

(源氏物語・若菜上、p.1071)

- (7) (中君)「なほえこそ書きはべるまじけれ。やうやうかう起きゐられなどしはべるが [起きていられなどいたしますのが]、……」

(源氏物語・椎本、p.1564)

- (8) 旅のいはやなきところにも寝られけり [寝られた] (拾遺和歌集 356)

(略)

中古の肯定可能の例を検討すると、「既に実現している」という共通点がある。例えば、(5)の「見入る」事態は現在実現している。(6)の「数ふ」事態は習慣(心ならひ)として、(7)の「起きゐる」事態は最近の傾向として、(8)の「寝」事態は一度の体験として実現している。(略)

これを踏まえて、本稿では事態の実現の有無という観点から肯定可能を分類して、「できた・できている」のように、直前・過去に実現した、あるいは、現在実現している状態を表す可能を〈既実現可能〉、「できる(だろう)・あの時していればできたのに」のように、実現する能力・条件があってもまだ実現していない、あるいは、過去に実現しなかった状態を表す可能を〈未実現可能〉と呼ぶことにする。この観点によれば、「中古の肯定可能の「る・らる」には〈既実現可能〉はあるが〈未実現可能〉はない」とまとめられる。(吉田 2013:19-21、[] 内は引用者追加)

- (22) 中古の肯定可能の「る・らる」は〈既実現可能〉と捉えられる。しかし、〈既実現可能〉で解釈できそうな箇所には必ず「る・らる」が現れるわけではなく、他の形式が現れることもある。(略)

まず、「る・らる」のⅠ「既実現の個別的事態」に対応するのは、実現を表す完了の「つ・ぬ・たり」を用いた次の(13)～(15)のような例である。

- (13) 白雲の絶えずたなびく峰にだに住めば住みぬる (住ンデミルト住ムコトガデキル) 世にこそありけれ (古今和歌集 945)
- (14) かの国人、聞き知るまじく思ほえたれども、言の心を男文字にさまを書き出だして、このことは伝へたる人に言ひ知らせければ、心をや聞き得たりけむ (意味ヲ理解スルコトガデキタノデハナイダロウカ)、いと思ひのほかになおめでける。(土左日記、一月二十日)
- (15) とみの物縫ふに、かしこう縫ひつ (ウマク縫ウコトガデキタ) と思ふに、(枕草子「ねたきもの」)

(略)

実現を表す助動詞を用いた(13)～(15)と「る・らる」を用いた(5)～(8)とは、主体が事態の実現を望んでいる点では共通するが、事態の実現の仕方が異なる。例えば、(15)が「縫ふ」ことを努力して行った結果、実現した事態であるのに対して、(5)は屏風や几帳など遮るものがない状況が「見入る」事態を実現させている。(6)～(8)も状況によって思いがけず実現した例と解される。つまり、「る・らる」の表す〈既実現可能〉は、実現しようと努力して(意志的に)実現できた事態(典型的な意図成就)ではなく、思いがけず(非意志的に)実現した事態を表している。したがって、具体的な動きを伴う意志的動作を表す場合には「る・らる」が用いられないのである。

(吉田 2013:19-22)

- (23)

	望み	実現の仕方	形式	意味
(a)	無	非意志的	る・らる	自発
(b)	有	非意志的	る・らる	既実現可能
(c)	有	意志的	つ・ぬ・たり・無標	既実現可能

(吉田 2013:23)

2. 問題の整理

・「可能」の捉え方

①動作をすれば、望む結果に至る。(シテナル：半自動化)(→ヴォイス)

②動作が望む結果に至るためのルートが有効である。(→束縛的モダリティ)

→①と②は一応別のこと。「能力可能」「状況可能」は②に関する事。

・日本語：可能形は「動作をすれば、望む結果に至る」ことを表す。

未然の事態でも既然の事態でも、可能と非可能が区別される。

(24) 日本語

		形式	意味
未然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめる
	潜在可能	可能形	動作をすれば、望む結果に至る
既然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめた
	実現可能（条件不問型）	可能形	動作をしたら、望む結果に至った
	実現可能（条件型）		

(25) a. 3キロ泳ぐ。(=泳いで3キロという結果に至らしめる) [スル]

b. 3キロ泳げる。(=泳げば3キロという結果に至る) [デキル]

(26) a. 今日は3キロ泳いだ。(=泳いで3キロという結果に至らしめた) [シタ]

b. 今日は3キロ泳げた。(=泳いだら3キロという結果に至った。) [デキタ]

(27) a. 荷物を^{はい}入れる。(=^{はい}入れて^{はい}入るという結果に至らしめる) [スル]

b. 荷物を/^{はい}入れられる。(=^{はい}入れれば^{はい}入るという結果に至る) [デキル]

c. 荷物が^{はい}入る。(=^{はい}入れれば^{はい}入るという結果に至る) [ナル(結果可能:張1998)]

(28) a. 荷物を^{はい}入れた。(=^{はい}入れて^{はい}入るという結果に至らしめた) [シタ]

b. 荷物を/^{はい}入れられた。(=^{はい}入れたら^{はい}入るという結果に至った) [デキタ]

c. 荷物が^{はい}入った。(=^{はい}入れたら^{はい}入るという結果に至った) [ナッタ(結果可能)]

・中国語：可能の助動詞は「動作が望む結果に至るためのルートが有効である」ことを表す。

未然の事態では可能と非可能が区別されるが、既然の事態では区別されない。

(29) 中国語

		形式	意味
未然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめる
	潜在可能	可能形	動作が望む結果に至るためのルートが有効である
既然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめた 動作をしたら、望む結果に至った
	実現可能（条件不問型）		
	実現可能（条件型）		

- (30) a. 要游三公里。(3キロ泳ぐつもりだ。泳いで3キロという結果に至らしめる。)
b. 能游三公里。／可以游三公里。(3キロ泳げる。泳ぐ動作が3キロという結果に至るためのルートが有効である。)

- (31) 游了三公里。(3キロ泳いだ。泳いで3キロという結果に至らしめた。)
(3キロ泳げた。泳いだら3キロという結果に至った。)

- ・ 既然の結果を述べる中国語の文は「動作の結果あり」「動作の結果がこうだ」ということを述べるだけ。「結果に至った」と「結果に至らしめた」が述語レベルでは区別されない。

- (32) a. 游了三公里。
b. 「泳ぐ」動作の結果として、「3キロ」という結果あり。

- (33) a. 拿到驾照了。／驾照拿到了。
b. 「とる」動作の結果、「手にしている」という結果あり。

- (34) a. 你的字写得好漂亮!
b. 「書く」動作の結果が「上手だ」だ。

- ・ 既然の、あるいは実現が予定されている事態に対して、可能の助動詞が用いられた場合は、「現在は不可能ではなく、可能である」という気持ちで、事態実現の前提となる「動作が望む結果に至るためのルート」が有効であることに言及している。基本的には潜在可能。

- (35) (= (6))
能見到您很高兴。
((このように) お会いできるとはうれしい。／(このように) お会いできることはうれしい。)[会えないと思っていた]

- (36) (= (7))
(スケートをしながら)
a. 今日は体調がいいからこんなにすいすいすべれるよ。
b. 我今天身体状态好, 所以 {能/可以} 滑得这么好。[前はこうはいかなかった]
c. 我今天身体状态好, 所以滑得这么好。

- (37) (= (8))
a. 今始めれば日暮れまでには書ける。
b. 现在开始写的话, 傍晚就能写完。[不可能ではない]
c. 现在开始写的话, 傍晚就写完了。

- ・ 韓国語：可能形は「動作が望む結果に至るためのルートが有効である」ことを表す。
未然の事態では可能と非可能が区別される。既然の事態では「実現可能（条件型）」と「実現可能（条件不問型）／非可能」が区別される。

(38) 韓国語

		形式	意味
未然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめる
	潜在可能	可能形	動作が望む結果に至るためのルートが有効である
已然	非可能	非可能形	動作を望む結果に至らしめた
	実現可能（条件不問型）		望む結果に至るためのルートは有効だが未実現だった動作が、実現に至った
	実現可能（条件型）	可能形	潜在的には望む結果に至るためのルートが無効だったが、ある要因により、現実にはルートが有効だった

(39) 오랜만에 만났는데, 즐겁게 지내면 되잖아. (= (13b))

久しぶりに 会ったので 楽しく 過ごせば よいじゃないか

[→潜在的に会える人に会えていなかったのが、現実に出会った]

(40) 1주일간 밤샘해서 겨우 논문을 낼 수 있었다. (= (12b))

1週間 徹夜-して やっと 論文-を 出すことができた

[→潜在的には「出せない」だったが、1週間の徹夜により、現実には「出せる」だった]

(41) (授業の残りの時間で感想を書くよう学生に指示した。終了時間が近づいて)

a. 書けましたか? / 書きましたか?

b. 썼어요? [→「書ける」と思っている]

書きました

c. 쓸 수 있었어요? [→「場合によっては書けない」と思っている]

書くことができました

(42) (電車であいた席に腰かけて)

a. やっと座れた (#座った)。

b. 겨우 앉았다. [→「いつか座れる」と思っていた]

やっと 座った

c. 겨우 앉을 수 있었다. [→「座れない」と思っていた]

やっと 座ることができた

(43) a. 運よくバスに乗れた (#乗った)。

b. 운 좋게 버스를 탔다. [→「運がよければ乗れる」と思っていた]

運よく バスを 乗った

c. 운 좋게 버스를 탈 수 있었다. [→「乗れない」と思っていた]

運よく バスを 乗ることができた

(44) 日本語

韓国語

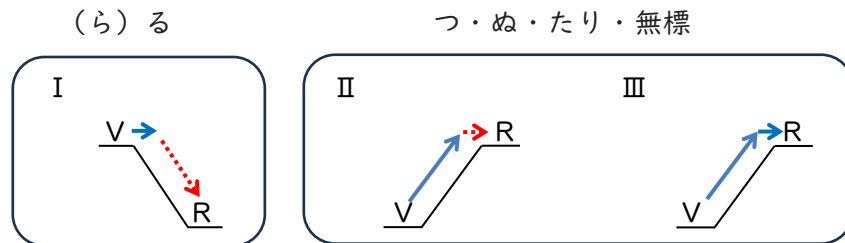
스물	데킬 (시테날)	스물 시테날	데킬 (實現ルート有効)
(非可能)	(可能: ヴォイス)	(非可能形)	(可能: モダリティ)

- ・ 古代日本語：「結果に至るまでの働きかけがない・ある」が区別される。
- ・ 現代日本語：「結果に至る」と「結果に至らしめる」が区別される。

(45)

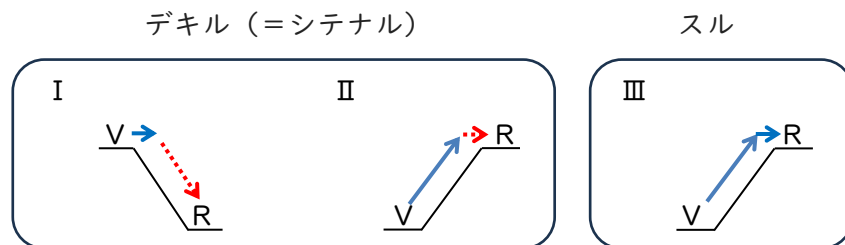
	意味	古代日本語	現代日本語
I	動作主が動作をすれば（したら）、 自然に望む結果に至る（至った）。	（ら）る	デキル・デキタ
II	動作主が働きかければ（働きかけたら）、 その力により望む結果に至る（至った）。	つ・ぬ・たり	
III	動作主が働きかけて臨む結果に至らしめ る（至らしめた）。	無標	スル・シタ

(46) 古代日本語



（V：動作、R：結果、青実線：意志が及ぶ部分、赤点線・意志が及ばない部分）

(47) 現代日本語



- ・ 中国語の可能補語：「当該場面において当該の動作と結果が不可分の状態にある」ことを表す。「（ら）る」に近い。

(48) 「能 VR」を“対象に働きかけて、その結果対象に変化を起こさせることができるという主体（動作主）の能力、性状に言及する表現”と規定することが出来よう。

（略）

「V 得 R」が専ら用いられる場合とは、『対象に何ら積極的に働きかけることなく、その場の状況において VR の状態（動作）が表す事態が実現した』場合ということにならないであろうか。

（小野 1990:95-96）

(49) 这个馒头，十五分钟就能蒸熟（*蒸得熟）。 （小野 1990:95）

(50) 黎明之前，满院子还是昏黑的，只隐约的看得见各家门窗的影子。

(夜明け前、庭はまだ真っ暗で、ただぼんやりと家々のドアや窓の影が見える。)

(小野 1990:97)

3. まとめ

- ・ 現代日本語：「ナル」「デキル (=シテナル)」「スル」の区別が重要。
- ・ 古代日本語：「働きかけなし」と「働きかけあり」の区別が重要。
- ・ 韓国語：「可能・不可能 (実現ルート有効・無効)」と「実現・未実現」の区別が重要。
- ・ 中国語：「未然 (非現実・情報)」と「已然 (現実・事実)」の区別が重要。

- ・ 「スル」と「シテナル」は、動画的には異なる事態だが、紙芝居的には同じ事態。

(井上 2009)

○補説：可能文における肯定と否定の非対称性

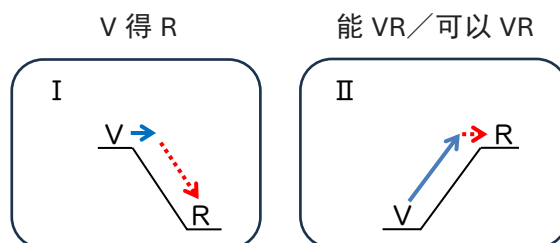
- ・ 可能肯定文：「可能のあり方」を表し分けることが重要。
- ・ 可能否定文：「事象のどの局面を否定するか」を表し分けることが重要。

(51) (= (14))

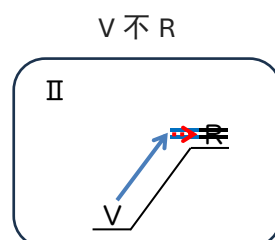
(「あの人に会えた？」と聞かれて)

- a. 만났어. (会えた。)(→会える人に会うに至った) (条件不問型実現可能)
会った
- b. 못 만났어. (会おうとしたが会えなかった。)(結果の否定)
不可能 会った
- c. 안 만났어. (会わなかった。会うことをしなかった。)(動作の否定)
否定 会った

(52) 肯定 [動作→結果]



(53) 否定 [~ (動作→結果)]



- ・「(ら)る」の可能用法が否定に偏るのも、否定の対象となる「動作→結果」の背景にある期待が読み込まれるため。

(54) (a) の期待逸脱型自発形武(助動詞(ら)ル)は、期待からの逸脱ということについて肯定文と否定文とで対照的である。以下、生産的な自発形式をもっている山形市方言を例にすると(略)、自発文は、可能文と、

(21) 酒をやめようと思っても、目の前にあるとついつい飲マル(自発肯定文)のような肯定文では、行為の実現が動作主体の意志の発動によらないことと、発現した行為の内容は動作主体が期待するものでないことという2つの点で異なっているが、

(22) 最近雑用に追われて、読みたい論文がぜんぜん読マラネ(自発否定文)のような否定文では前者のみが異なっている。後者については違いがなく、実現しないのはいずれも動作主体が期待する行為である。この点、自発文と可能文の距離は、否定文の場合のほうが小さい。また、自発文と可能文は、肯定文では、

(23) 君に会うとぐちが{言ウイからいい(可能文)／ついつい言ワル(自発文)}の例など使用される文脈は全く異なるが、否定文の場合には、次の例のように、同じ状況のもとではほぼ互換性をもって使用することができるところがある。

(24) 最近忙しくて、なかなか街に{行ガンネ(可能)／行ガラネ(自発)}

(25) 最近宴会がなくて、なかなか酒が{飲マンネ(可能)／飲マラネ(自発)}
(渋谷 2005:38)

○課題：韓国語の「되다」「지다」(なる)を使った可能文

(55) 뵈게 왜서 반갑습니다. (『小学館朝鮮語辞典』)

お目にかかるようになって うれしいです

(お目にかかれてうれしく思います。お目にかかることになり、うれしく思います。)

(56) 이번 시험에서는 그런 어려운 한자도 써졌다. (高 2015:131)

今回 試験では そんな 難しい 漢字も 書く-なった

(今回の試験ではそんな難しい漢字も書けた。思いがけず書けた。)

参考文献

井上優(2009)「動作」と「変化」をめぐって『国語と国文学』86-11、至文堂

小野秀樹(1990)「中国語の可能表現—「他動性」を通しての「能VR」及び「V得R」の考察—」『中国語学』237

尾上圭介(1998)「文法を考える5 出来文(2)」『日本語学』17-10、明治書院

高恩淑(2015)『日本語と韓国語における可能表現—可能形式を文末述語とする表現を中心に—』ココ出版

渋谷勝己(1993)「日本語の可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』第33冊第1分冊

渋谷勝己(2005)「日本語可能形式における文法化の諸相」『日本語の研究』1-3

杉村博文(1997)「可能補語の考え方」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

張威(1998)『結果可能表現の研究—日本語中国語対照研究の立場から—』くろしお出版

山口明穂(1988)『国文法講座 別巻 学校文法』明治書院

吉田永弘(2013)「「る・らる」における肯定可能の展開」『日本語の研究』9-4